



いしかわようこ 市川陽子 議員 公明党

## 福祉避難所運営マニュアルの活用

**問** 令和元年房総半島台風および10月25日大雨時の災害対応における課題を、新防災計画へどのように盛り込まれたのか伺います。

**答** 総務部長 地域防災計画の改定にあたっては、①要介護者や女性など、プライベートの確保が必要な避難者への環境不備、②避難所運営における細部のルールや統制事項が定まっていないこと、③避難所配備の職員がどのように対応すべきか明示されていないこと、④報告・連絡・相談の体制が整っていないこと等、広範・多岐に渡る問題点について、見直しを図りました。

地域防災計画に記載できない細かな内容は「避難所運営マニュアル」や「福祉避難所運営マニュアル」に記述しており、マニュアルの実効性向上のため、年1回運営訓練を実施しています。

## 災害における音声コードの導入

**問** 障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法が、令和4年5月に施行されましたが、音声コードへの市の対応状況を伺います。

**答** 保健福祉部長 音声コードとは、印刷物に印字された「二次元コード」と言われるもので、一つのコードに800字程度の情報を入れることが可能となっており、視覚障害者の方は、スマートフォンアプリや読み上げ装置等を使って、このコードの文章を読み上げ、音声情報を取得することができます。

本市では、視覚障害等級1級または2級の方を対象に、読み上げ装置購入のための費用を一部助成しています。

**問** 視覚障害者を支援する協会が、国や自治体に音声コード作成ソフトを無償貸与しており、本市でも視覚障害者や高齢者への情報伝達の対応として、普及を図るべきと考えますが、市の見解を伺います。

**答** 保健福祉部長 現在、「山武市第4次障がい者計画、第7期障がい福祉計画及び第3期障がい児福祉計画」の策定に取り組んでいます。その計画の内容には、アンケート調査を実施し、障害をお持ちの方のニーズを確認したうえで、アプリや情報機器等の利活用推進を盛り込んでいきます。

**問** 市が作成するハザードマップへの音声コード活用の考えを伺います。

**答** 総務部長 ハザードマップの情報量を音声コードにより伝達することの可能性と、実行するうえでの課題について協議し、導入を検討します。

**答** 市長 市民の命を守るため、災害・防災情報の伝達は、極めて重要であると考えます。関係部署で検討を進め、今後も、災害弱者と言われる高齢者や障害を持つ方に適切に情報が伝わるよう取り組んでいきます。

## 成東総合運動公園の整備

**問** 成東総合運動公園の隣接地や公園周辺の維持管理の状況を伺います。

**答** 教育部長 公園周辺への影響を考慮し、草刈りや枝の剪定、木々の伐採のほか、流末排水施設の維持管理や設置フェンスの定期的な確認など、適正な管理に取り組んでいます。

なお、公園用地内の流末排水施設部分の草刈りや土砂の流出対応などの美化作業を、周辺住民の方々に実施していただいていた案件がありました。現在は、市で対応を図るべく、現在、関係部局と協議しています。

**問** 市の管理が行き届かず、周辺住民のボランティアにより維持管理されているケースが、市の施設全般で見受けられます。

大規模事業により影響を受ける周

辺地域からの要望や完成後の管理など、きめ細かな対応があつてこそ、スムーズな事業遂行と運営につながるものと考えますが、市長の見解を伺います。

**答** 市長 事業の大小に関わらず、隣接地権者や地元関係者との協議は必要不可欠であり、その対応次第で事業の遂行やその後の管理・運営に影響が及ぶものと考えます。

周辺住民との連絡を密にし、その対応に至った経緯の記録を残しながら、取り組んでいきます。

## 带状疱疹ワクチン接種

**問** 带状疱疹は、神経痛の合併症に加え、角膜炎や顔面神経麻痺、難聴などを引き起こし、目や耳に障害が残ることもあると言われますが、その予防のためのワクチン接種は、任意接種であり、接種費用も高額です。

特に、年金暮らしの高齢者には重い負担となるため、定期接種化されるまでの間、接種費用の助成が必要と考えますが、市長の見解を伺います。

**答** 市長 定期接種化が助成制度導入の条件ですが、任意接種に対して助成を実施している県内市町村の状況なども注視しながら、引き続き、健康づくりの推進に取り組みしていきます。

